

長野県介護福祉士会広報誌

CareWorkしなの



Contents

- 01 県との意見交換会報告
- 02 オムツ外し学会in長野2023開催
- 03 支部の研修・イベント報告
- 05 委員会のご紹介
- 06 事務局からのお知らせ
- 07 編集後記

Topics 01

県との意見交換会のご報告

Topics 02

オムツ外し学会潜入レポート!!

Topics
01

県介護支援課との意見交換会のご報告

参加者それぞれの立場から現場の声を届ける

8/21、第9期長野県高齢者プラン策定に向けて、県介護支援課との意見交換会を行いました。当会からは鈴木会長、片倉副会長、松木副会長、本木理事、事務局の5名が参加。会長からは地域包括ケアシステムにおける認定介護福祉士の必要性、人材不足の原因の一つとして夜勤手当の少なさ、小中高生の福祉体験の促進とすき間人材の必要性、そのほかロボットやICTの活用が逆に現場の負担になってしまっている事業所もあることから、活用をマネジメントできる人材育成が大切との意見などが出されました。松木さんからは、未来志向で施策を考えることが問題解決につながると語られました。「人材不足解消のために海外人材を増やす」という考え方ではなく、「日本の介護技術は素晴らしいものだから学んで世界に広めて欲しい」という技術の輸出という

視点で捉えなおす事、そして日本の介護人材が国際的に活躍できる状況を作ることは、介護の魅力を上げることにつながると語られました。

片倉副会長からは、養護老人ホームが課題を抱えた高齢者の受け皿となっているにも拘わらず、その存在の重要性が理解されていないため他の施設より厳しい運営状況にあること、本木理事からは人材不足にコロナが拍車をかけ、その負担がリーダーにのしかかり、リーダーが体調を維持できなくなっているなど、小規模の事業所の厳しい現状が語られました。しかしそんな中でも、70代以上の高齢の職員がご自身の活躍の場として、ご本人にとっての新たな居場所となっていることなども併せて伝えられました。

会としての役割の再確認

当会役員の現場からの意見に、県の方々も真摯に耳を傾けてくださり、質問も多く2時間の意見交換はあっという間に終了となりました。語られたことすべてはお伝えできませんが、会を終えた後の出席者からは、「良い時間であった」「みなそれぞれに重要なことを話すことができた」など充実した時間となったことがうかがえました。

今後は、会からの意見がプランにどのように反映されるかを注視し、

意見を述べ続けていくことが大切であると考えております。そして私たち自身も他県や他団体、他業界にも目を向けることで気づきを多くし、向かうべき介護の未来に対し気持ちを明るく持ち続け、会として介護業界に、そして社会に何が貢献できるのか考え続けることが重要であると再確認した時間でもありました。

当会参加者

鈴木よし子 会長
片倉千洋美 副会長
松木信治 副会長
本木智恵子 理事
事務局



Topics
02

オムツ外し学会 in 長野2023開催

当たり前で、新しい介護の潜入レポート

9/17に中野市豊田文化センターで、一般社団法人たむろ処/一般社団法人考える杖/くるんば共催による「オムツ外し学会」が開催されました。全国から駆けつけた講師陣による、自身の体験談を交えた深い介護の話は、今までの自分を振り返り、明日への介護に勇気や力を与えてくれました。そんな学会の当日だけでなく前夜祭の様子も合わせて報告いたします。



介護のYouTubeチャンネル「かいご嘶」のメンバーによる「オムツ外し学会、は～じま～るよ～」のかけ声で学会がスタート。午前の部は『おもしろいぜ!中間管理職!』のお題で3組6名の講師による対談形式で進んでいきました。



植賀寿夫さん、本田淳さんによる「お年寄りが嫌がることをして傷ついた話」。本田さんの体験談に、うなづく会場。魅力発信やハッピーエンドだけが介護ではない。介護は自分の嫌なところも見なくてはいけないが、そこを認めていくことも大事。



小林敏志さん、白濱彩香さんによる「ケアする人をケアする話」。対利用者だけではなく職員に対しても段階に応じて、支援や指導など方法を考えていくことを教わりました。



坂野悠己さん、鞆さんによる「介護の仕事を楽しめるチーム作りの話」。良い介護をチームで実践するには施設内影響力を高め、発信の場や共感者を増やしていく必要がある。正しい≠楽しいではなく、それを楽しいと思わせるのはリーダーや主任の力であるとユーモアを交えて話す二人。



三好春樹先生による「介護の社会化から社会の介護化へ」村瀬孝生先生による「介護が楽しく思える瞬間」そしてお二人による対談「介護を深める」。介護は教育ではなく共感である。点の関わりではなく、それをつなげて点を線に。線から面にするために自分の言葉で表現していくことが重要であることを再認識することができる学会でした。



学会前夜祭 リアル「かいご嘶」に潜入。
介護関係者が集まって介護現場での出来事や伝えたいことなどを小断にして話をしていくチャンネルです。
今回、広報として初のYouTubeデビューを飾ってきました。
ぜひチャンネル登録をよろしくお願いします。 →



研修・イベント報告

支部・ブロック・委員会では沢山の研修やイベントを開催しています。

長野県介護福祉士会は4つの支部に分かれており、さらにその支部を複数のブロックで分けています。本会の研修だけではなく、支部ごと、ブロックごとにも研修やイベントが日々開かれております。また、今号P5で紹介する地域福祉委員会でも交流会を行っております。今回は8月～9月で開催されたいくつかをみなさんにご紹介いたします!!

地域福祉委員会●新村千草

クラフト交流会

会員の小口美紀さん(岡谷市社協地域活動支援センター日だまりの家勤務)によるクラフト講習会を行いました。小口さんは利用者さんと作った籠やエコたわしやリバーシブルの袋などをバザーで販売しているそうです。今回は初めてクラフト講習会を行ないました。私はみなさんにいかに楽しんでいただくかを考えてみました。毎回レクリエーションのお題がついてしまいますよね。皆さんはどんなレクリエーションの研修があればいいとお考えですか?皆さんそれぞれ色々活躍されていますよね。みなさんのご意見をぜひお聞きしたいです。



CDブロック長●竹花一希

介護カフェinみまき 東信支部



9/8に東信支部CDブロックが主催する「～介護の未来を語ろう～介護カフェinみまき」が社会福祉法人みまき福祉会Caféみまき苑で開催されました。緑豊かな自然に囲まれたカフェで提供された、自慢のピザやデザートプレート、参加者同士の語り合いはお腹だけではなく、心や気持ちをはぐし、明日への活力となったことでしょう。ここで参加者の声や、当日の様子を写真で紹介します!今回の介護カフェは、特に大きなテーマは決めず、参加者は3つのテーブルに分かれて、それぞれ座談会のように自由に語り合っていました。介護(仕事)の悩みや介護福祉士の悩み、ゲストとして参加していただいた柳澤さん(前会長)、上村さん(2代目会長)、講師として活躍してきた角田さんの体験談なども交えながら穏やかな時間を過ごすことができました。

飯伊ブロック●市瀬芳明

認知症について



研修では主に認知症の疾患について、飯田病院認知症疾患センターについて、認知症の症状と対応についての講義をお聞きし、講義終了後はグループワークを行いました。「認知症の新薬が出たことを初めて知った」、「認知症疾患センターを使った認知症ケアの方法があることがわかった」、「地域外で過ごされてきた方の対応に困っている。」などの感想や質問が出ました。第2回を予定しているので今後は現場での悩みなど共有していけたらと思います。

南信支部●達岡よしみ

持ち上げない介護



私が介護福祉士を目指したのは2011年に起きた未曾有の国難、東日本大震災後に石巻市ボランティアに行った時に聞いた話があったからです。【入居者さま全員を上階に避難させた後、介護職員が全員津波に流され亡くなった。】というものです…。当時一般企業に勤めていましたが、直ぐに介護福祉士になる勉強を始めました。命に優劣はありません、命の選択も出来ません。利用者さま・患者さま・入居者さま、もちろん大切です。しかし同等に職員の命も大切です。介護現場に転職して12年が経ちました。未だに、【若い職員たちがメンタルを病み、腰や膝を痛め身体も病んでしまう】介護業界の間に頭を悩ませています。リフトやスライディングボード・シートを上手に活用し、利用者さま・介護職員両者が心身ともに健康で笑顔の多い現場に行きたいという思いは今も変わりません。座学での『短大で指導した金の卵たちが腰を痛めていく。』と話された時の太和田先生の表情を忘れません。科学的根拠に基づいた介護を的確に努め、更に更に良い施設になるように大いに学び邁進します。愛溢れるパワフルな研修を、有難うございました。

北信支部●佐藤大介

生活支援技術研修

先日北信支部では、支部研修として生活支援技術を行いました。また研修後は介護カフェも行き、講師には会員の方の小林真弓先生をお迎えしました。1時間と短い時間ではありましたが、移乗について実施しました。私自身、介護職に付いて10年ではありますが、研修を通して改めて移乗について考え、また初心に戻るいい機会であったと思いました。まずは声掛けからですが、利用者の目線に合わせて声を掛けることです。働いている中で疎かにしがちな部分です。誰でも上から物事を言われることはとても嫌です。ましてやベッドにいる利用者にとっては上から言われることは恐怖でしかありません。ですが、目線に合わせて声を掛けることで利用者も安心することが出来ます。そこからケアに移ることで安心感や信頼関係にも繋がっていくのではと思いました。



技術についてです。利用者の身体を小さくまとめ、起き上がりから移乗までの動作を行いました。両腕を両肩にもっていき、両足を曲げ、顔を介助者側に向けていただき、側臥位にします。側臥位になったところで、さらに両足を臀部側に寄せ、起き上がり介助を行います。起きた際は浅座りになっていることがあるため、両足の足底がつくよう座り直しその後移乗になります。移乗の際は腰を落とし、身体を密着し足も広げなくてはなりません。多種多様な利用者がありますが、とても大事な技術になります。私自身も疎かになっていることに気づき、基本は大事だなと考えさせられた技術でありました。

研修後介護カフェを行い、様々な方の悩みや施設での出来事について話をすることができました。今の職場でしか介護経験はありませんが、他の施設での話には興味があり他の参加者と楽しく話をすることができました。今後も様々な研修を行っていきますが、皆さんも一度初心に戻ってはいかがでしょう？



Introduction

委員会のご紹介

当会には大きく4つの委員会が設置されています。委員会のご紹介を委員長を兼務している本会の副会長からご紹介いただきます。

総務委員会 地域福祉委員会 災害対策検討委員会 片倉千洋美 副会長

●総務委員会は、運営委員会を年6回開催しています。運営委員は介護福祉士の事業運営を円滑に行うために、会長、副会長、各支部の支部長、副支部長、会計(副会計)、事務局が一堂に会して協議検討を行っています。会員状況、各委員会や支部の活動報告、定時社員総会や公開セミナー、講演会等の企画状況などを確認し情報共有を図り、各支部で行われる支部会に向けて情報を共有しています。その他、次の二つの委員会

●地域福祉委員会の目的は、経験豊かな諸先

輩方の力を借りながら、潜在介護福祉士の職場復帰を促すと同時に、時代のニーズに求められる研修などを協議企画することです。研修の企画を通して会員を増やすことを目的とした活動を関係団体等と連携し推進。また、シニア世代の活躍の場を広げていくことを目的としています。諸先輩方の築いた介護福祉士会を、諸先輩方の力をお借りし大きな組織として継続をしていきたいと思っております。是非お力をお貸しください。昨年は30周年記念誌を発行いたしました。今年度は研修旅行の企

画、運営も考えています。先日は新たな研修交流会として、籠とバック作りを行いました。今後も地域福祉委員会としての研修を企画していきます。大勢の方の参加をお待ちしています。

●災害対策検討委員会は、災害支援マニュアルの作成や災害ボランティア研修の企画を行っています。



研修委員会 甲田孝子 副会長

研修委員会は、各支部から4名選出され、16名の委員と事務局で構成されています。主な活動は、本会で行っている研修にスタッフとして参加し、事務局が中心となって行っている研修運営の補助をしています。講師の紹介、研修に関する注意事項などをお伝えする役割を担っていますが、グループワークの際は、受講生の中に入って一緒に考えたり受講生の意見をお聞きしたりしています。また、支部の中の研修の充実を図る目的として、支部長と連携し

て研修を計画し運営する役割を担っています。支部もしくはブロックで必ず行ってほしい研修として、「生活支援技術」と「認知症」の2つを掲げていますので、各支部での計画の際には、ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。お仕事で忙しい中にも、『研鑽の場』『息抜きの場』として充実した研修を計画していきますのでお楽しみに!会員の皆様からのご意見等お待ちしております。



広報委員会 市瀬芳明 副会長

広報委員会は、①会員意識の向上に資する啓発の広報活動と②会員拡大への広報活動を目標に年5回発行されている「care workしなの」の記事集めなどを中心に活動しています。今年度からcare workしなのやホームページがリニューアルし心機一転、新たな第一歩を踏み出しました。昨今、介護の現場でもICTの活用が必要となってきており、時代の波に取り残されないことも重要なスキルの一つになりました。その一番の変革が、今年度の定時社員総会をメタバース

で行ったことではないでしょうか。介護福祉士会として全国で初めての試みは、事前打ち合わせを何度も行い、入念なりハーサルを重ねながら当日を迎え成功裏に終わりました。SNSを利用した情報発信やチラシの見栄え等、現代の広報の仕方を模索しながら、会員の方々はもちろんの事、介護職を目指している学生さんなどを含め多くの方々に活動の様子を伝えられるように取り組んでいきたいと思っております。



組織委員会

松本信治 副会長

組織委員会は介護福祉士の役割を周知し、会員を増やすことが目的です。介護福祉士の「職能団体」がどのようなことを考え、どのようなことに取り組んでいるのかを広く発信して、共に介護の魅力を高めるべく仲間を増やしていきたいと考えています。今年度は定時社員総会がメタバース空間で実施され、会報誌「ケアワークしなの」がデザイン一新、ホームページもリニューアルされました。組織委員会でも今後はフェイスブックなどのSNSを通じた情報発信も積極的に取り入れていきたいと考

えています。これまでの組織拡大の活動も引き続き継続し、介護福祉士国家試験の会場でホッカイロ配布や、コロナ禍で制限されていた養成校との連携も再開したいと思います。長野県介護福祉士会はなんといっても素晴らしい先輩を輩出してきた歴史があります。職場で介護業界を牽引されている会員のみなさん、お一人お一人の声掛けと口コミが何より一番の「組織強化」です。魅力ある組織づくりにどうかお力をお貸しください。



事務局からお知らせ

『長野県介護福祉士会レポート集(仮題)』制作決定!!

昨年30周年を迎えた当会。これまで沢山の方々が素晴らしい実践発表やご報告などをしてきました。定時社員総会だけでなく、長野県介護福祉士会の会員として日本介護福祉士会で発表された方も多くいらっしゃると思います。そのような努力の賜物である成果物を集め、みなさんの目に触れていただけるよう『長野県介護福祉士会レポート集(仮題)』を制作することとなりました!

しかし、皆さんがこれまでどのような発表をされてきたのか、残念ながらすべてを把握できておりません。「〇年に〇〇で発表しました。」という方、ぜひ事務局までご連絡ください!そして発表のデータと共にご提供いただけませんか!(紙媒体でも結構です!)

年代も立場も違う様々な発表から、皆さんが作り上げてきた介護の歴史、時代と共に進化してきた知識や技術などが、そこからきっと見えてくるはずです。みなさんからのご連絡お待ちしております!!!

連絡先

☎ 026-223-6670 ✉ info@kaigo-nagano.jp

最新情報をまとめてチェック!

公式HP



『ケア輪久』

コミュニケーションについて

介護を行う上でコミュニケーションは重要であり、私自身も介護職に就いてからはコミュニケーションについて何度も悩まされました。コミュニケーションでも様々な伝え方があります。

コミュニケーションとは“自分の思いや感情、思考などを誰かと伝え合うこと”。手段としては言葉として伝える「会話」、体を使って表現する「ジェスチャー」があります。会話は日常でも使っていますが、親しみを込めて敬語ではない話し方をすることもありますが、利用者の尊厳という観点からはあまり良いとはいえません。ですが、硬すぎるとごちなくなってしまう。適度に砕きながら会話をするのがよいのかもしれない。ジェスチャーは難聴の方や、聞こえている方でも理解が難しい方によく使います。言葉で表現するより、身振り手振りを使って会話をすると、より伝わりやすく会話もスムーズに行える場合もあります。筆談も有効活用することができ、難聴のある方にはジェスチャーではなく筆談をすることで会話ができることもあります。また手話も活用できますが、利用者が昔から使っていること、また私たち自身も理解や使い方がわかっていることが重要です。

今回のケア輪久ではほんの触りの部分のコミュニケーションを紹介させていただきました。皆さんもこの機会にコミュニケーションについて再度調べてみてはいかがでしょうか？ネットにも様々なことが掲載されています。一様にこれがいいとはいきませんが、検索をしてみてください。



編集後記



皆さんいかがお過ごしでしょうか。研修も様々なものが開催されています。実際参加した研修もあれば、こんな研修もあったの？と思う研修もあります。今回は研修報告もいくつかありますので一度手に取ってご覧下さい。また様々な感染症も流行ってくる時期に突入してきます。新型コロナ感染症もまだまだ終息が見えてこず、増加傾向にあります。まずは感染しないよう感染対策し自身を守っていかなくてはなりませんので、皆さんも気を付けてお過ごしください。それでは皆さん次号も楽しみにお待ちしております。

北信支部 佐藤大介

長野県介護福祉士会広報誌「ケアワーク信濃」

Vol.171 (2023年10月号)

発行：公益社団法人 長野県介護福祉士会
会長：鈴木よし子



<事務局>

〒380-0936 長野県長野市中御所岡田98-1 長野保健福祉事務所庁舎2F

TEL:026-223-6670 FAX:026-223-6679

Email:info@kaigo-nagano.jp